

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2021年10月22日

妊娠第一期という胎児にとってセンシティブな時期に新型コロナワクチンを接種しても流産は増えないようだ

## 【松崎雑感】

新型コロナワクチンの開発トライアルは、妊娠女性を除外して行われたため、妊娠中に接種した場合の安全性は検証されていませんでした。その後、妊娠していないと思ってワクチンを接種された人々、さらに自己責任でワクチンを接種した人々の妊娠経過のデータを分析すると、全体として妊娠中の新型コロナワクチン接種は、胎児や母体に悪影響をもたらさないことが徐々にわかってきました。

本日紹介のNEJM論文は、妊娠初期というセンシティブな時期に新型コロナワクチンを摂取した場合の影響を、流産率を指標として分析した者です。結論は「安全」でした。妊娠中に新型コロナに感染した場合、重症化リスクが極めて大きくなることを考えると、妊娠予定あるいは妊娠中の方は、ワクチンを受けることをお勧めします。

# 妊娠第一期という

胎児にとってセンシティブな時期に

新型コロナワクチンを接種しても流産は増えないようだ

Magnus MC(Norwegian Institute of Public Health, Oslo, Norway), Gjessing HK, Eide HN, Wilcox AJ, Fell DB, Håberg SE. **Covid-19 Vaccination during Pregnancy and First-Trimester Miscarriage.** **N Engl J Med.** 2021 Oct 20. doi: 10.1056/NEJMc2114466. Epub ahead of print. PMID: 34670062.

妊娠中に新型コロナワクチンを受けても、流産、早産、胎児異常などは増えなかったことが多くの疫学調査で確認されています。

しかし、妊娠の初期という胎児の発育の始まる時期は、様々な有害因子の影響を特に受けやすい時期ですから、妊娠初期に新型コロナワクチンを受けた場合、流産が増えないかどうかは、特に検討する必要があります。

## 【調査対象】

ノルウェーの流産症例約4500名（新型コロナワクチン接種群約200名、未接種群約4300名）

## 【評価項目】

妊娠早期（14週以内）の新型コロナワクチン接種の有無による流産率の差

## 【結果】

流産発生リスクを未接種群=1とした場合、ワクチン接種の3週以内流産リスク0.91（95% confidence interval [CI], 0.75 to 1.10＝有意差なし）、5週以内流産リスク 0.81（95% CI, 0.69 to 0.95＝有意に20%低下）

## 【結論】

交絡因子の調整が十分ではないが、妊娠初期の新型コロナワクチン接種が流産を増やすという証拠は得られなかった。